

⑬出向者報告

(公社) 日本青年会議所 東北地区協議会

ゼミナール委員会 委員 佐川 隆司

本年度、東北地区ゼミナール委員会への出向させていただきました佐川隆司です。当初、ブロックのアカデミー委員会との違いも判らず、軽い気持ちでの出向でしたが、同期メンバーはほとんどが副理事長、専務で私よりはるかに JC 経験が長い方ばかりでした。

理事長になる人が学ぶ場とは聞いてはいましたが、実際に同期メンバーからは 6 名の 2018 理事長、3 名の地区委員長、運営専務が輩出されました。次年度理事長を担う責任感のある多くのメンバーと共に学べたことはとても貴重な経験となりました。何を学んだかは東北青年フォーラムで発表させていただいた通りですが、一言にまとめますと『地域を巻き込み LOM を牽引する豪傑』とは何か。そして、そうなるにはどうしたらいいのかを学びました。吉田理事長に恥をかかせない為に皆勤賞だけは取ろうと思っていましたが、メンバーにも恵まれ、そしていい刺激を受け、優秀賞と皆勤賞を頂くことができました。今回の出向を通じて得た学びを次年度以降の LOM の活動に活かしていきたいと思います。

最後に本年度出向の機会を頂いた吉田理事長はじめメンバーの皆様に感謝を申し上げます。一年間ありがとうございました。

(公社) 日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会

監査担当役員 佐藤 教順

本年、(公社) 日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会監査担当役員として出向をさせて頂きました。監査担当役員として福島ブロック協議会を近すぎず遠すぎずの見方で捉えるよう心掛けて参りました。成田会長が掲げた今年度への想いをそれぞれが理解し、それをそれぞれが実現しようと志した一年数か月でした。

監査担当の具体的な職務としては、業務監査と会計監査があります。会議開催にむけた諸準備から会議の進め方、中身に至るまで、議案として上程される事業の予算、決算、資料の保管状況等々。特に予算の執行から決算については、適切に行われているのは当然のことであり、それらに係わる信憑書類の確認まで実に多岐に亘ります。

また、一方では目に見える物質的部分と目には見えにくい部分を多く感じる事が出来ました。特に事務局、財政局の目には付きにくい裏方での職務を全うする姿には、頭の下がる思いです。一つの議案にどれほどの時間と労力をかけ、一つの会議にどれ程の諸準備を行い運営出来ているのか、出来上がったものに意見や評価、ましてや苦言を呈すことは容易であります。しかしながら、目には見えない、見えにくいものを想像し広い視野を心がけ、そこで捉えた時に初めて意見を言えるのではないのでしょうか。決められたルールに則りながらの事業運営は、実に多方面をよく熟知していなければ厳しいものがあり、それらに囚われ過ぎると本質を見いだせなくなることも多々あります。常に何の為の事業なのか、何の為の運動なのかを心中に置きながら、規則に沿った運営を心掛ける必要があります。

結びに、このような機会を与えて頂きました吉田理事長をはじめメンバーの皆様に感謝を申し上げます。

(公社) 日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会
LOM 支援委員会 副委員長 菅野 善久

今回、福島ブロック協議会 LOM 支援委員会の副委員長として出向させて頂き、多くの学びの機会を得ることが出来ました。年間を通して、各 LOM への支援等をさせて頂きました。また、当委員会として2つの事業を行いました。

1つ目は、会員拡大の事業です。日程調整がつかず次年度との合同引き継ぎ会となってしまいましたが、多くの参加者により次に繋がる会員拡大事業だと感じました。

2つ目に法人格維持セミナーを11月に開催いたしました。法人格取得という形ではなく、取得し繋ぐ事が大切だと感じました。私たちが考えている以上に理解しなければならない事がたくさんあり大きな学びとなりました。この経験を次に繋げられるよう精進してまいります。吉田理事長をはじめ LOM メンバーの皆様には感謝いたします。1年間ありがとうございました。

(公社) 日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会
LOM 支援委員会 幹事 榊原 昌寛

当委員会は、福島ブロック協議会各会員会議所の会員拡大・各 LOM を様々支援する委員会です。そのなかで、各 LOM に案内し、10月に会員拡大セミナーを、11月に法人格セミナーを開催しました。当 LOM から菅野善久君が副委員長として出向し、幹事として出向させて頂きました。

当委員会に出向し、多くの出会い・気付きを頂き大変素晴らしい機会でした。このような機会を与えて頂いた吉田理事長を始めメンバーの皆様には感謝申し上げます。ありがとうございました。

(公社) 日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会
アカデミー委員会 幹事 菊田広嗣

本年度アカデミー委員会の幹事として出向をさせていただきました。アカデミー生としての経験がない状況での出向となりましたので塾長の補佐としての役割を全う出来るのか不安を抱えての出向ではありましたが、塾長がうまく役割を振ってくれる等の配慮をしてくださったおかげで、塾生たちと共に自身を成長させることが出来る非常に有意義な出向となりました。担当塾の塾生たちも一所懸命に出席してはテーマについての推敲を繰り返していました。塾生が一丸となってこの一年を駆け抜けたことは、おこがましいようですが私にとっても誇りであり、きっと何年たってもお互いにより思い出として語り合うことができるでしょう。このような素晴らしいメンバーとめぐり合い、互いに高めあうことができる機会をいただけたのも、もとみや青年会議所のメンバーやアカデミー委員会スタッフのみなさん、私と関わってくださった多くの方々のご協力のおかげであると思っています。一年間本当にありがとうございました。

(公社) 日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会
LOM支援委員会 委員 野尻直之

本年はLOM支援委員会へ委員として出向をさせて頂きました。LOM支援委員会では会員拡大支援や公益法人の維持セミナーなどを19LOMのメンバーへ対して行いました。会員拡大はもとみやJCにとっても、益々重要になってきます。現在の会員の世代別人数をみても、今後5年間で大半のメンバーが卒業を予定している状況です。もとみやJCの活動や運動を次世代につなげていく為にも、拡大目標を立て取り組んでいかなければなりません。それと同時に一般社団法人格を維持していく為にも、現在も経過中である公益目的支出計画の推移状況をメンバーに対して改めて周知し理解を深めて頂く必要があります。委員会への毎回の出席は出来ませんでした。上記の事を次年度以降にメンバーへ対して還元して参りたいと思います。最後に出向の機会を頂いた吉田理事長はじめメンバーの皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(公社) 日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会
組織連携委員会 委員 高松 幸乃

本年度、組織連携委員会に委員として出向させて頂きました。組織連携委員会では地方のインフラ投資や防災関係に力を入れ活動して参りました。

まず、復興の加速・防災安全保障の確立・地域医療の向上・首都圏一極集中の是正・交流人口の拡大・生産性向上・雇用と賃金の増加などインフラ投資は全てを実現する一歩と考え、県北6県と連携し、インフラ整備構想マップ(案)を基に政策を掲げ署名書とともに政策提言書を国土交通省へ提出し、政府にインフラ投資を行いました。

また、皆で楽しみながら防災知識を身につける「イザ！カエルキャラバン！」や避難所で起き得る状況の理解と適切な対応を学ぶ「避難所運営ゲーム」を対外に向け実施して参りました。それぞれの事業で県北の力強さを感じました。

全ての委員会に出席することは出来ませんでした。他LOMのメンバーと上記の事業内容を話し考えた時間は自分自身に貴重な体験となりました。本年の出向を通して得た学びを次年度LOMの活動に活かしていきたいと思っております。

最後に本年度出向の機会を頂いた吉田理事長はじめメンバーの皆様に感謝を申し上げます。一年間ありがとうございました。

(公社) 日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会
ふくしまの未来創造委員会 委員 渡邊晃子

委員会の事業は全国一斉国民討議会で本宮市からも1名の大学生が参加して下さり、BL全体で約60名の大学生に討議の機会設ける事ができました。

次に、公開討論会の設営を致しました。各会場でコーディネーターや設営運営を担当し、どの会場でも8割程度まで席が埋まっておりました。ネットでの衆議院選公開討論会も生配信致しました。LOM内で大玉村長選公開討論会も設営運営を仰せつかり、観客より活発に意見を頂き成功に終わった事業と言えると思います。

また、みらいくの運動は全国的に見て福島ブロックが圧倒的な回数の活動を行う事ができました。そして、11月21日に100%委員会を達成し、BL役員懇親会での褒賞でMVP委員会に選ばれました。

この様に結果を残せました事は、田村JC渡邊副会長、いわきJC馬上委員長をはじめとするスタッフの皆様や委員の皆様が、きめ細やかな気配りをして下さいまして、委員会全体が団結し一つの目標に向かい行動する事ができたからと、感謝の気持ちでいっぱいです。

この経験をこれからのJC運動へ生かし、LOMへも還元できればと思います。

一年間有難う御座いました。

(公社) 日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会
アカデミー委員会 委員 佐川 隆司

本年度、アカデミー委員会に出向させていただきました佐川隆司です。2月の開校式から始まって10か月が過ぎ去ってしまいました。開校式でMVPを取ると宣言しましたが、それがかなわず本当にすみませんでした。東北地区ゼミナールでは優秀賞止まりで吉田理事長に壇上に上がって頂く事しかできず、スピーチをしていただけなかったことが心残りでした。今回、アカデミー委員会ではMVPを取り、吉田理事長を壇上にお呼びする予定でしたがそれも叶わず申し訳ない気持ちでいっぱいです。結果としましてはMVPに一步及ばない、アカデミー生から選ばれる豪傑賞と皆勤賞でした。この悔しい気持ちを恩返し of 気持ちに変え、2018はLOMに恩返しさせていただきます。

私はこのアカデミー委員会で多くの仲間とJCのすばらしさがわかりました。JCにハマりました。これからの新入会員はアカデミー委員会に全員出向していただきたいと考えています。全員JCにハマって頂きたいと考えております。それができるのも多くの仲間に出会えるアカデミー委員会ならではののではないのでしょうか。

そんな出向メンバーが外を見て戻ってきた時、改めて自身のLOMを見て、もとみやJCに入会して良かったと思えるLOMを創っていきたいです。

最後にこのような出向の機会を下さった吉田理事長はじめメンバーの皆様ありがとうございました。

(公社) 日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会
アカデミー委員会 委員 大浪 遼太郎

入会して理事長から最初に言われた言葉が「アカデミーに出向してくれ」でした。まだ右も左もわからない中、知らない人達ばかりのところへ飛び込めと理事長は言う。当時は言えませんでしたでしたが、少し恨みました。いざ出向してみると、周りは年上の血気盛んなメンバーばかり。JC がどういう団体でなにをしたらいいかもわからなかった自分にとっては、眩しすぎてついていけないという気持ちが強かったです。転機となったのは夜の懇親会でした。昼間では言えなかったこと、本当の想いを聞くうちに「この人達も同じなんだ。不安で自分と変わらない人間なんだ。」ということが理解できたのです。違うのは自分より少しの勇気と行動力があるということ。でも、決して手の届かない距離じゃない。

それを理解してからは、メンバーを仲間と思うようになりました。負けられないようにという気持ちが湧いてきました。実際にできたことはなかったかもしれませんが、しかし、出向以前とは確実に心構えが違ってきます。それは、仕事や普段の生活でも生かされています。今では、理事長とアカデミーの仲間達に感謝しています。ありがとうございました。

(公社) 日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会
ブロック大会実行委員会 委員 國分久徳

今年度、2年目となるブロック大会実行委員会へ出向致しました。委員会を重ね、だての地で行われましたブロック大会では、同じ東北地区の開催であった為、副主幹と言う担いがありました。出来る限りの委員会出席、そして恒例の PR キャラバンでは、他の LOM メンバーよりも出席していたと思います。移動時間が長く PR 時間は15分程度、行く意味あるのかなとお思いの方もいるかもしれませんが、主幹 LOM やブロック役員の皆様は本気です。そういった気持ちに答えるべく、時間が許す限り参加致しました。激動の PR キャラバンが終わるとすぐ本番です。だての地で行われたブロック大会では、記念事業と題し、「愛郷心を育む事業」を行いました。鯉のぼりシートを県内全域の小学4年生に書いていただき、自分の地域について考え、想いを記載いただきました。会場で、カラフルに色染された鯉のぼりシートには、県内全域の子供たちの夢や希望そして地域の現状や将来像など伸び伸びと記載してありました。大懇親会では、ちどり足ラリーin だてが行われ、街の飲食店を複数移動し、練り歩く設えでした。

今回の出向で、初めて会う他 LOM のメンバーやだて青年会議所メンバーと協働し、また一つ成長の機会を頂きました。今年度の活動を糧とし、今後も出向の機会に楽しみを覚え、更なる成長の機会を頂けたら幸いと存じます。

